

令和 5 年 6 月 15 日現在

機関番号：17702

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2022

課題番号：20K19600

研究課題名（和文）学校体育「ダンス系」領域の「知識」の明確化と「知識」を活用した授業モデルの構築

研究課題名（英文）Clarification of "knowledge" and construction of a class model that utilizes "knowledge" in the dance field of school physical education

研究代表者

梶 ちか子（KAKOI, CHIKAKO）

鹿屋体育大学・スポーツ人文・応用社会科学系・准教授

研究者番号：70557082

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、「ダンス系」領域の「技能」に対応した「知識」を明確化し、「技能」と関連させた「知識」を活用した発達段階別の授業実践モデルを構築することを目的とした。

まず、学習指導要領の「技能」に対応させた発達段階を踏まえた「技能評価観点構造図」を完成させた。次に、作成した発達段階別の「技能評価観点構造図」をもとに、学年別に「知識」と「技能」を関連させた授業方法や教材等を検討し、単元計画・指導案を作成した。その後、作成した単元計画・指導案をもとにした授業モデルに沿って各校種で授業実践を行った。その結果、各校種における「知識」を活用したダンスの授業モデルの有用性を確認することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究において、発達段階を考慮したダンスの「技能」に対応した「知識」を体系化することができた。このことにより、教師がそれぞれの校種・学年でダンス授業を行う際の指導すべき「技能」に対応した「知識」が明確となり、評価に関しても学習者に習得が期待される「知識」が明示されることにより、評価規準が明確になり、学習成果の保障に繋がる。さらに課題解決を想起させる問いの深化が生まれ、授業を構成する上でも大きな一助となる。また、「技能」と関連させた「知識」を活用した授業方法のモデルを示すことで、たとえダンスを専門としない体育教師でも、授業の質を落とすことなく授業に取り組むことができるようになると考えられた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to clarify the "knowledge" corresponding to skills in the dance field, and to build a lesson practice model for each developmental stage that utilizes the "knowledge" associated with the skills.

First, we completed a "skill evaluation perspective structure chart" based on the developmental stages corresponding to the skills in the course of study. Next, based on the "skill evaluation perspective structure chart" created for each developmental stage, study methods and teaching materials that link "knowledge" and "skills" for each grade, and create unit plans and lesson plans. After that, classes were practiced at each school type according to the class model based on the created unit plan and instruction plan. As a result, we were able to confirm the usefulness of the dance lesson model that utilizes "knowledge" in each school type.

研究分野：体育科教育学

キーワード：ダンス 発達段階 体系化 知識 技能 評価観点 授業

様式 C - 19, F - 19 - 1, Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

平成 29・30 年告示の学習指導要領では、「知識の理解の質を高める」ことが明記された。保健体育科においても、体育分野の「知識」について、「技能」と関連させた学習が重要であり、具体的な知識の理解にとどまらず、運動実践や生涯スポーツにつながる汎用的な知識の定着も重視することが示された。また、「技能」と関連した「知識」を活用する授業を行う中で、「思考力、判断力、表現力等」や「学びに向かう力、人間性等」も育成される。さらに、授業を通して児童生徒が獲得した「知識」は、「する、みる、支える、知る」等の生涯にわたって運動に親しむ態度の育成や、保健体育科の目標である、「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」の獲得に繋がる。したがって、体育分野の学習すべき「技能」に対応した「知識」は、体育授業の実践、保健体育科で獲得を目指す態度や資質・能力の根幹をなし、「技能」と関連させた「知識」を明確にし、それらの「知識」を活用した授業実践モデルを構築することは、体育授業の充実や児童生徒の生涯スポーツに繋がる資質・能力の育成を目指す上で、大変重要であると考えた。

研究開始前から、教師が体育の各運動領域の「知識」を明確化するための教材や研修ツールの開発を進めていたが、「表現運動系及びダンス」(以下、「ダンス系」領域)の「技能」と関連した「知識」の特定、また、発達段階に応じた「知識」の特定の 2 点については、未解決のままであった。「ダンス系」領域の中でも、あらかじめ決まった振付のない「自由」なダンスである「表現・創作ダンス」(以下、「表現系ダンス」と「リズムダンス・現代的なリズムのダンス」(以下、「リズム系ダンス」)については、特に「技能」と関連した「知識」が明確でなかった。児童生徒それぞれが「自由」な動きを行う中で、教師側が「何が良い動きなのか」といった動きに関する「知識」がないと、授業のねらいや指導内容、評価が曖昧になってしまう懸念があった。また、小学校の「表現運動」における即興表現と高等学校の「創作ダンス」の即興表現では、テーマが異なるにも関わらず、その「技能」に伴う発達段階に応じた具体的な「知識」は整理されていなかった。教師が小学校から高等学校まで、12 年間の系統性を踏まえた指導を実現するためにも、「ダンス系」領域における「知識」の系統性を明らかにすることは必要不可欠であると考えた。

一方、ダンスの授業実践については、これまでも、「技能」のみの指導によらない、課題解決型学習を基本とした授業が展開されてきた。しかし、却って「技能」やそれに関連する「知識」を活用した授業実践に関しては、研究が進んでいない状況であった。

教師が発達段階や学習者の特性に応じた指導を実現するためには、「ダンス系」領域における「知識」の系統性を明らかにし、「わかる」と「できる」を繋ぐ授業づくりが求められると考えた。

2. 研究の目的

以上のような背景を踏まえ、本研究では、「ダンス系」領域の「技能」に対応した「知識」を明確化し、「技能」と関連させた「知識」を活用した発達段階別の授業実践モデルを構築することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、以下の 3 つの計画を立て、研究を進めた。

(1) 学習指導要領の「技能」に対応させた発達段階を踏まえた「知識」の整理～発達段階別の「知識」の構造図：技能評価観点構造図の作成～

ダンス専門家及び各校種の現職教員とともに、梶ほか(2020)の「技能」の要素を構造化した図と平成 29 年・30 年告示の学習指導要領解説の「表現系ダンス」「リズム系ダンス」の「技能」の例示をもとに、発達段階別に重視すべき「技能」に対応させた「知識」(技能評価観点)の項目を選定及び構造化した。

(2) 「知識」の活用をねらいとした発達段階別の体系的ダンス授業モデルの開発

(1) で作成した発達段階別の「知識」の構造図をもとに、ダンス専門家及び各校種の現職教員とともに「知識」と「技能」を関連させた授業方法や教材等を検討し、単元計画・指導案を作成した。

(3) 校種別授業実践モデルの効果検証

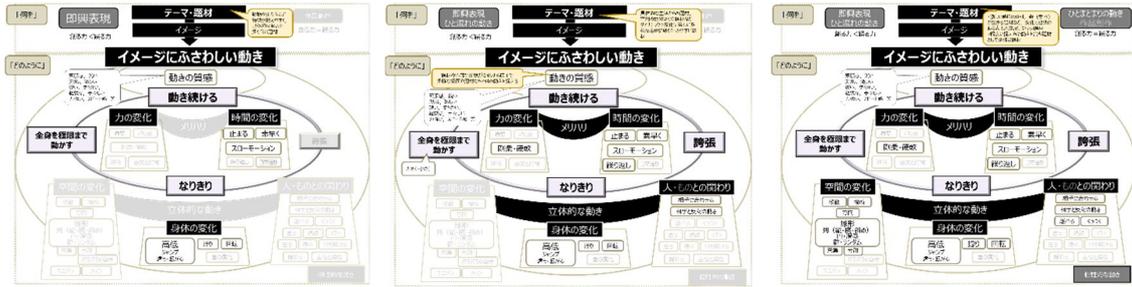
開発した授業モデル(授業方法・教材)に沿って、鹿児島県内の小・中・高等学校にて授業実践を行い、「知識」を活用したダンスの授業モデルの有用性を検証した。

4. 研究成果

(1) 学習指導要領の「技能」に対応させた発達段階を踏まえた「知識」の整理～発達段階別の「知識」の構造図：技能評価観点構造図の作成～

表現系ダンスとリズム系ダンスの小学校第1学年及び第2学年から高校入学年次の次の年次以降までの「技能」に対応させた「知識」を構造化した図を以下に示す。

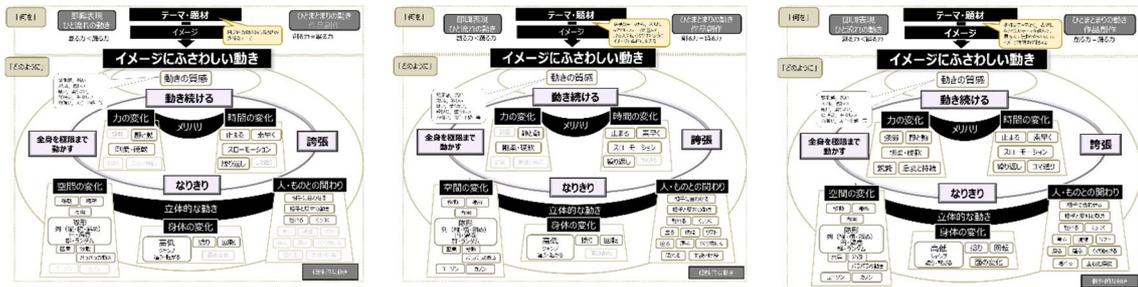
<表現系ダンスの技能評価観点構造図>



小学校第1学年及び第2学年

小学校第3学年及び第4学年

小学校第5学年及び第6学年

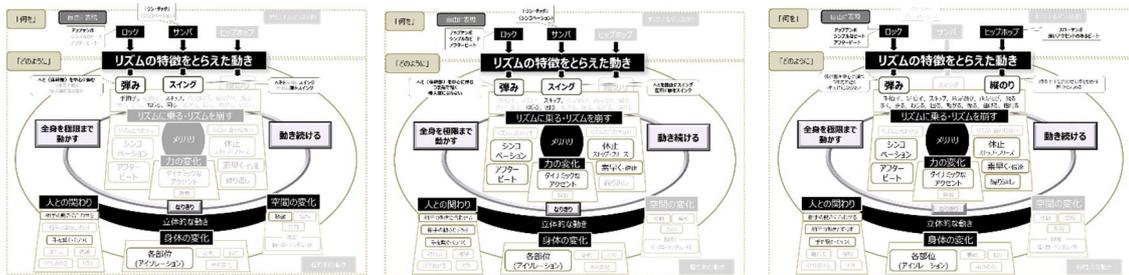


中学校第1学年及び第2学年

中学校第3学年及び高校入学年次

高校入学年次の次の年次以降

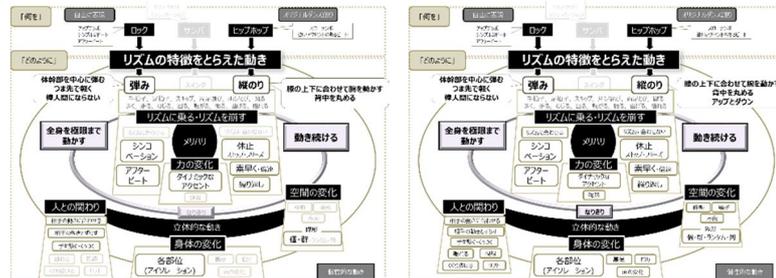
<リズム系ダンスの技能評価観点構造図>



小学校第1学年及び第2学年

小学校第3学年及び第4学年

中学校第1学年及び第2学年



中学校第3学年及び高校入学年次

高校入学年次の次の年次以降

(3) 校種別授業実践モデルの効果検証

開発した授業モデル(授業方法・教材)に沿って、鹿児島県内の小・中・高等学校にて授業実践を行った。授業実践を行った生徒・教師へのアンケート・インタビュー調査から、各校種における「知識」を活用したダンスの授業モデルの有用性を確認することができた。

(4) まとめ

発達段階別の技能評価観点構造図の活用

技能と関連した「知識」を小学校第1学年及び第2学年から高校入学年次の次の年次以降まで図式化して整理した。この図を明示することで、教師側が対象となる学年で指導すべき技能と関連した「知識」について理解が深まった。

教師のダンスの「知識」の学習方法の選択

教師自身が、ダンスの「知識」を確認・把握した後、学年を越えた指導・評価項目の重点化や、単元計画の中で、いつ、どのような手段で何の「知識」を指導するのかを明確にしたことで、板書やワークシート等を用いた授業内での指導内容を整理することができた。

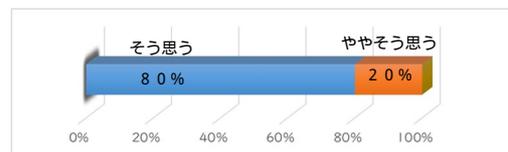
児童・生徒のダンスの「技能」に関する「知識」の獲得

ダンスの話し合う活動の際に、教師がダンスの「知識」の獲得を意識し掲示物やワークシート、ICT等を活用した具体的な課題設定を行ったことで、子ども達が習得した「知識」を生かしてその課題解決に取り組み、学習の深化が見られた。また、ダンスを「する」以外の「見る、支える、知る」楽しさを子ども達が学び、学習内容が表現やダンス授業、実技の時間のみで留まることなく、日常生活やその他の授業にも派生する様子が認められた。

(5) 成果の発信

それぞれの校種における授業実践及び研究結果の一部については、第55回全国女子体育研究大会(オンデマンド開催)にて発表した。また、梅ちか子研究室のHPにて、成果報告のページを作成し、成果物を掲載した(https://kakoi-edu.jp/?page_id=458)。

現職教員への図の有用性に関するアンケート



発達段階別の6段階の「技能評価観点構造図」は「知識」と技能を繋ぐ、ダンスの指導や評価をする上で役立ちそうですか？

<参考文献>

- ・梅ちか子・松元隆秀・金高宏文(2020)表現系ダンス・リズム系ダンスの「技能評価観点構造図」の提案。九州体育・スポーツ学研究, 34(1): 9-25.
- ・梅ちか子ほか(2022)第55回全国女子体育研究大会鹿児島大会 研究概要・分科会の研究内容。第55回全国女子体育研究大会鹿児島大会研究紀要, 22-118.
- ・文部科学省(2017a)小学校学習指導要領解説 保健体育編。東洋館出版社。
- ・文部科学省(2017b)中学校学習指導要領解説 保健体育編。東山書房。
- ・文部科学省(2018)高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編。東山書房。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 梶ちか子	4. 巻 81
2. 論文標題 表現・ダンス授業における「主体的・対話的で深い学び」について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 女子体育研究会だより	6. 最初と最後の頁 3-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梶ちか子	4. 巻 82
2. 論文標題 ～感じて 動いて 考えて～ ー表現・ダンス授業の「主体的、対話的で深い学び」；ダンスの知識を問うー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 女子体育研究会だより	6. 最初と最後の頁 3-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梶ちか子	4. 巻 65
2. 論文標題 研究報告（公開授業・研究発表）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 女子体育	6. 最初と最後の頁 49-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梶ちか子	4. 巻 80
2. 論文標題 表現・ダンス授業の「主体的・対話的で深い学び」～ダンスの「知識」を問う～	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 女子体育研究会だより	6. 最初と最後の頁 5-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 榎 ちか子
2. 発表標題 表現系ダンスの学習指導要領の「技能」に対応させた「知識」の整理 - 発達段階を踏まえた「技能評価観点構造図」の作成 -
3. 学会等名 日本スポーツ教育学会第42回学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 榎 ちか子
2. 発表標題 第55回全国女子体育研究大会鹿児島大会 研究報告
3. 学会等名 第55回全国女子体育研究大会鹿児島大会（オンデマンド開催）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 榎 ちか子
2. 発表標題 リズム系ダンスの学習指導要領の「技能」に対応させた「知識」の整理 - 発達段階を踏まえた「技能評価観点構造図」の作成 -
3. 学会等名 2022年度 体育・保健体育ネットワーク研究会 ファイナルラウンド
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 榎 ちか子, 小松恵理子, 金浦美咲
2. 発表標題 表現・ダンス授業の発達段階を踏まえた「知識」の整理 - 教員養成課程において活用できる教材の作成 -
3. 学会等名 九州体育・スポーツ学会第 70 回記念大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

梅ちか子研究室のHPにて、成果報告のページを作成し、成果物を掲載 (https://kakoi-edu.jp/?page_id=458)

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------